トヨタ車体
TOYOTA AUTO BODY

2016 CSR REPORT

目　次

■会社プロフィール　2
■トップメッセージ　5
■経営理念　7
■コーポレート・ガバナンス　7

■もっといいクルマづくり　8
■お客様の声に応えて　9
■良い品質のクルマづくり　16
■人づくり、職場づくり　18

■社会貢献　27

■地球環境にやさしく　30
■製品環境　31
■生産環境　34
■環境マネジメント　37

編集方針

当社は「もっといいクルマづくり」を通じた豊かな社会づくりに貢献すべく企業活動に取り組んでおります。
本レポートでは当社およびトヨタ車体グループを巾広く知っていただけるようＣＳＲ活動を紹介致します。

また、取り組みをより分かりやすくお伝えするために、本紙では活動のポイントを紹介しておりますが、
更に深くお知りになりたい方は、本文中の click マークから詳細情報をご覧いただく事ができます。

尚、最終頁にアンケートを掲載しておりますので皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

本レポートの対象範囲と期間

対象範囲	トヨタ車体と連結対象子会社
対象期間	2015 年 4 月～ 2016 年 3 月を原則としますが、進捗のあった事項は期間を超えて記載。

表紙のクルマ

ランドクルーザー 200
（2015 年 8 月新型発売）

レクサス LX
（2015 年 9 月新型発売）

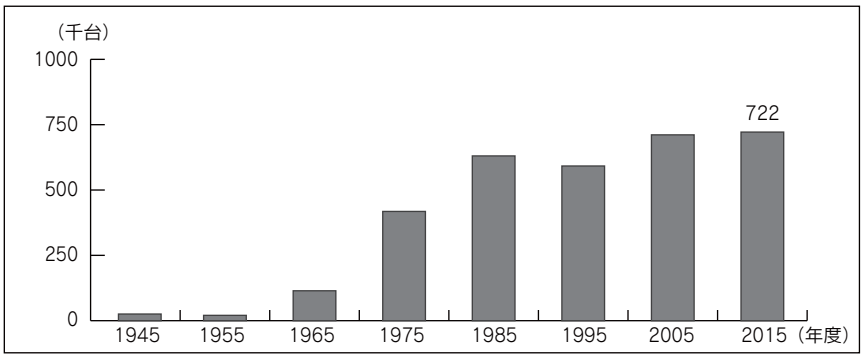
プリウス
回転チルトシート車
（2015 年 12 月新型発売）

■会社プロフィール

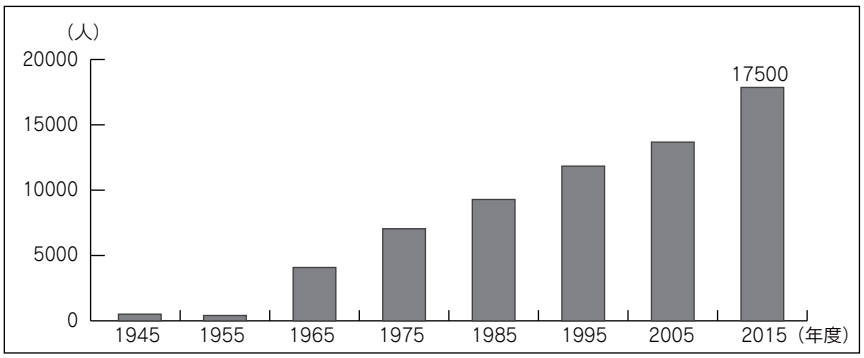
会社概要

社　　名	トヨタ車体株式会社
本社所在地	愛知県刈谷市一里山町 金山 100 番地
設　　立	1945 年 8 月 31 日
代 表 者	取締役社長　増井　敬二
資 本 金	103 億 7 千 1 百万円
売 上 高	1 兆 8,319 億円 (2015 年度実績・連結)
事 業 所	本社／富士松工場、 いなべ工場、吉原工場、 刈谷工場、 寿新規開発センター

【売上台数】



【従業員数（連結）】



関連情報

- click 会社概要
- click 製品ラインナップ
- click 開発から生産までの流れ

主要製品

当該モデルの初代発売年を〔〕内に表記

ミニバン

アルファード
〔2002年〕

ヴェルファイア
〔2008年〕

エスティマ
〔1990年〕

ヴォクシー
〔2001年〕

ノア
〔2001年〕

エスクァイア
〔2014年〕

商用車・コミューター

ハイエース
〔1967年〕

コースター
〔1969年〕

SUV

ランドクルーザー
200
〔1998年〕

レクサス
LX
〔2007年〕

ランドクルーザー
70 バン
〔1984年〕

小型 EV

コムス
〔2000年〕

福祉車両

リフトタイプ
車いす仕様車
〔1968年〕

サイドリフト
アップシート車
〔1994年〕

スロープタイプ
車いす仕様車
〔2001年〕

ウェルキャリー
（フレンドマチック
取付用専用車）
〔2009年〕

回転チルト
シート車
〔2015年〕

特装車

保冷バン
〔1979年〕

■会社プロフィール

主な事業所

生産拠点

本社・富士松工場
愛知県刈谷市一里山町金山 100 番地
＜主要製品＞
エスティマ、ヴォクシー、ノア、
エスクァイア、ランドクルーザー 70

いなべ工場
三重県いなべ市員弁町市之原 10 番地
＜主要製品＞
アルファード、ヴェルファイア、
ハイエース、レジアスエース

吉原工場
愛知県豊田市吉原町上藤池 25 番地
＜主要製品＞
ランドクルーザー 200、レクサス LX
ランドクルーザー 70、コースター

刈谷工場
愛知県刈谷市昭和町 2 丁目 1 番地
＜主要製品＞
コムス、福祉車両「ウェルキャブ」

開発拠点

開発センター
本社・富士松工場内

生産技術センター
本社・富士松工場内

寿 新規開発センター
愛知県豊田市寿町 1 丁目 36 番地 1

国内・海外　子会社

〔〕内の数字は創立年
＜＞内は主な事業内容

国内子会社

岐阜車体工業（株）
（岐阜県各務原市）〔1940 年〕
＜自動車、同部品の製造・販売＞

（株）東海特装車
（愛知県安城市）〔1954 年〕
＜特装車の製造・販売＞

トヨタ車体精工（株）
（愛知県高浜市）〔1992 年〕
＜シート部品などの製造・販売＞

エース産業（株）
（愛知県刈谷市）〔1974 年〕
＜部品、設備機器等の製造・販売＞

東海部品工業（株）
（愛知県刈谷市）〔1999 年〕
＜プレス・板金部品の製造・販売＞

ＴＡＢＭＥＣ（株）
（愛知県刈谷市）〔1985 年〕
＜建物、付帯設備の総合メンテナンス＞

（株）トヨタ車体研究所
（鹿児島県霧島市）〔1990 年〕
＜自動車部品の設計・試験＞

（株）エル・エス・コーポレーション
（愛知県刈谷市）〔2000 年〕
＜事務・福利厚生施設管理・
警備保障業務代行＞

■会社プロフィール

〔〕内の数字は創立年
＜＞内は主な事業内容

国内子会社

（株）イナテック
（三重県いなべ市）〔2000年〕
＜環境分析および計量証明＞

ライフクリエイション（株）
（愛知県豊田市）〔1993年〕
＜オフロード施設の運営＞

（株）ライフサポート
（愛知県安城市）〔1999年〕
＜介護用品販売、ホームヘルプサービス＞

（株）ジー・アイ・サービス
（岐阜県各務原市）〔1988年〕
＜福利厚生・工場営繕、保険他サービス＞

＊子会社の岐阜車体工業㈱の100%子会社

海外子会社

スギティークリエーティブス（株）
（インドネシア）〔1995年〕
＜自動車、樹脂部品の製造・販売＞

春翔欣業（株）
（中華民国（台湾））〔1997年〕
＜プレス・板金部品、金型などの製造・販売＞

タイオートコンバージョン（株）
（タイ）〔2004年〕
＜特装車の製造・販売＞

トヨタオートボデートーカイエクストゥルージョン（株）
（インドネシア）〔2005年〕
＜ゴム、樹脂成形部品の製造・販売＞

トヨタオートボデーマレーシア（株）
（マレーシア）〔2005年〕
＜プレス、板金、樹脂部品の製造・販売＞

オートパーツマニュファクチャリングミシシッピ（株）
（アメリカ）〔2007年〕
＜プレス、溶接部品、樹脂部品の製造・販売＞

トヨタオートワークス（株）
（タイ）〔1988年〕
＜自動車の製造・販売＞

レジンプラッティングテクノロジー（株）
（インドネシア）〔2013年〕
＜樹脂めっき部品、樹脂部品の製造・販売＞

じあしん ほうじつふくしきしゃぶけん
嘉興 豊実福祉汽車部件有限公司
（中国）〔2011年〕
＜福祉機器の販売＞

シートメタルパーツタイランド（株）
（タイ）〔2015年〕
＜シート部品などの製造・販売＞

＊子会社のトヨタ車体精工㈱の100%子会社

関連情報 click 国内子会社 click 海外子会社

■トップメッセージ

「もっといいクルマづくり」を通じて
豊かな社会づくりに貢献します

取締役社長

増井 敬二

平素より格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社はトラック専門メーカーとして 1945 年に創業し、物を運び人を運ぶという、人々の暮らしになくてはならない、生活を支える車づくりに取り組んでまいりました。その思いは、当社がお客様の求める声に応えて、いずれも日本初のオールスチールボデー「BX 型トラック」やモノコックボデー商用車「ハイエース」、世界初のコンポーネントレイアウト・ミッドシップ「エスティマ」など、つねに時流に先んじる車の開発、生産につなげてきております。

私たちを取り巻く環境はエネルギー問題や高齢化の進展、グローバル化による価値観の多様化など、大きく変化しています。当社はこれらの課題に真摯に向き合い、環境にやさしく全ての人に移動の自由と喜びを提供するとともに、安全安心で、乗って楽しいクルマづくりを通じて、豊かな社会づくりに貢献してまいります。

お客様の期待を超えて　「もっといいクルマづくり」を目指す

昨年 8 月に発表した新型「ランドクルーザー２００」、国内初販売の「レクサス LX」は、安全装備などを更に進化させるとともに、世界中の過酷地でも高い耐久性を維持し、安心して乗っていただける車として、ご好評を博しております。

また、すべての人に移動の自由と喜びを提供するため、高齢の方や身体の不自由な方のための福祉車両・ユニットや、環境にやさしく生活の利便性を向上させ豊かな街づくりに貢献する一人乗り電気自動車「コムス」の開発・生産にも取り組んでいます。

乗って楽しいわくわくドキドキするクルマづくりにおいては、昨年 10 月、東京モーターショーに、「クルマとともにある新しいライフスタイル」をコンセプトに我々の思いを形にした車を出展し、ご来場者から多くの反響をいただきました。

「豊かな社会づくり」に貢献

豊かな社会づくりに向けては、地球環境保全への取り組みが重要な課題であると考えるとともに、社会から必要とされる企業であるために、地域の皆様から信頼されかつ愛されることが大切と考え、環境・福祉・次世代育成を中心に社会貢献活動に取り組んでいます。

環境については、製品開発において燃費性能に寄与する軽量化技術の開発やリサイクル設計に取り組むとともに、工場においてはエネルギー使用量と CO_2 排出量の削減を目指し、塗装工程での工程短縮やリサイクル空調などの省エネ・低 CO_2 生産技術の織り込みに取り組んでおります。また、今年３月、「トヨタ車体環境取り組み６次プラン」を策定し、設計から生産に至るプロセス毎に目標値を定め、新たな取り組みをスタートさせています。

また、愛知・三重・鹿児島での企業の森活動や、インドネシアの海外子会社と連携したマングローブ植林活動など環境保全にも取り組んでおります。また、本社工場に隣接する当社「ふれ愛パーク」を活用した近隣小学校や行政と連携した稲作体験や環境学習会などに取り組み、2016 年 2 月に愛知環境賞銀賞を受賞いたしました。これからも地域の方々と連携を深める、永続したふれあいの場となればと考えています。

地域貢献については、当社製品の福祉車両での車いす利用者の移送サービスや、高齢者介護施設への慰問や車いす等の清掃ボランティアに取り組んでいます。また、社内で培ったノウハウを活かした地域のものづくり展示会への出展や近隣小学校を中心に「車づくり」工場見学の受け入れに取り組むとともに、当社の運動クラブによるスポーツ支援など、次世代育成分野での活動にも取り組んでいます。

「今後に向けて」

当社は、昨年 8 月に創立 70 周年を迎えました。これはお客様をはじめ、当社に関わる多くの皆様のご支援のおかげと深く感謝申し上げます。また、今年 4 月には、トヨタの製品軸ビジネスユニット“CV Company”※が発足し、当社はその中核を担うこととなりました。これは、当社が創業から大切にしてきた「クルマづくりを通じて、社会を豊かにしたい」との情熱（DNA）を未来につなげ、飛躍する機会と考えており、今まで以上に、グローバルに、ミニバン、商用車、SUV に福祉車両、小型 EV を加えた商品で「世界各地の生活を支え続ける、もっといいクルマづくり」を目指し、取り組んでまいります。
皆様におかれましては、引き続きかわらぬご支援、ご指導をお願い申し上げます。

2016 年 6 月

※ “CV Company”：ＣＶはコマーシャルビークルの略で、これらには乗用ユースのミニバンも含まれ、商用ニーズから乗用ニーズまで様々な「世界各地の生活を支える」クルマづくりを担うビジネスユニット。

■経営理念

当社は、豊田綱領の理念を受け継いだ社是と基本理念をもとに、持続可能な社会の発展に貢献すべく、すべてのステークホルダーを重視した経営を行ってまいります。

豊田綱領（1935 年制定）

一、上下一致　至誠業務に服し
　産業報国の実を挙ぐべし
一、研究と創造に心を致し
　常に時流に先んずべし
一、華美を戒め　質実剛健たるべし
一、温情友愛の精神を発揮し
　家庭的美風を作興すべし
一、神仏を尊崇し　報恩感謝の
　生活を為すべし

社 是（1963 年制定）

我が社は　国際的視野にたち研究と創造とにはげみよい製品によって社会に貢献し社業のたゆみない進展をめざす

開発：つねに時流に先んじアイデアと時間を尊重する
和親：誠実と信頼により 明朗と協調とをはかる
感謝：反省を進取の糧とし勤労のよろこびに生きる

基本理念（1995年制定、2004年改定）

1.環境との調和とオープンでフェアな企業行動を基本とし、国際社会から信頼され、豊かな社会づくりに貢献する企業をめざす。

2.お客様を第一に考え、研究と創造を通して、生活空間を豊かにする「よい商品」を提供する。

3.人と組織を活性化し、創造力と活力ある企業風土をつくり、企業の繁栄と社員の幸せを追求する。

4.取引先との相互信頼と開かれた取引関係を基本に、互いに経営体質の強化に努め、長期安定的な成長と共存共栄を実現する。

click「CSR 方針」

■コーポレート・ガバナンス

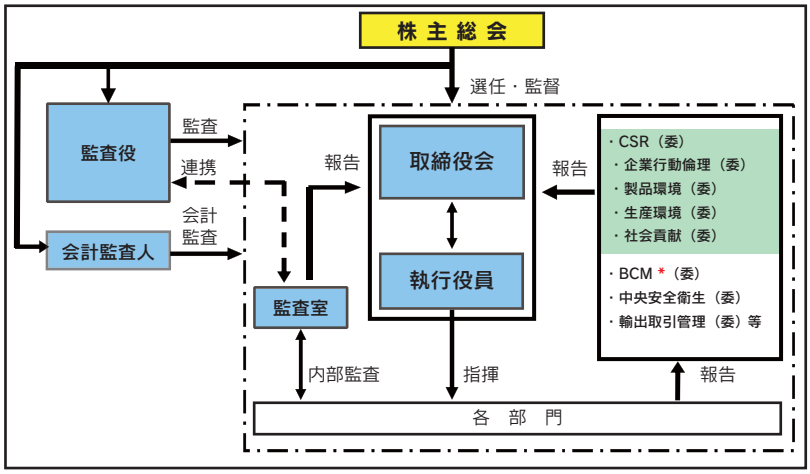
当社は、効率化をはかると同時に透明性の高い経営のしくみづくりに取り組んでいます。

執行役員制度を導入し、事業戦略展開の迅速な意思決定およびオペレーションのスピードアップを図っております。

また、社外を含む監査役の監査ならびに会計監査人による会計監査のほか、各部門から独立した監査室が、財務報告の信頼性及びコンプライアンスの領域を重点に内部監査を実施しています。

全役員および監査役で構成する「CSR委員会」とその下部組織として4つの委員会を設置し、重要課題について審議・対応しています。

コーポレートガバナンス体系図



＊：Business continuity management(事業継続マネジメント)の略。
各部各機能で復旧に向けた事業継続計画 (BCP) を策定し、
訓練などを通じ PDCA を回して改善・見直しに取り組む活動

■もっといいクルマづくり

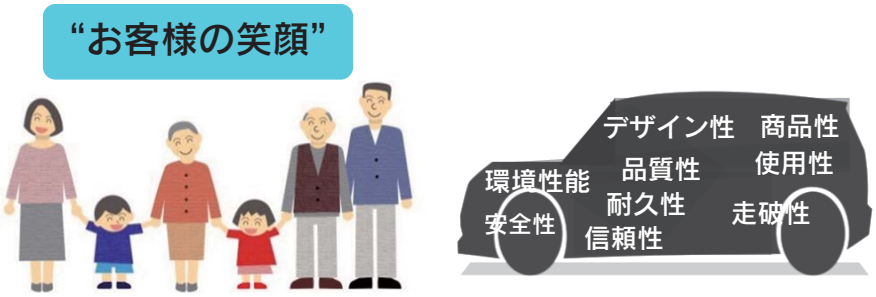
開発本部統括
取締役副社長　大橋　宏

「もっといいクルマづくり」を通じて、お客様に笑顔を提供します。

当社は、お客様の笑顔を思い浮かべ、感動とワクワク、どきどきするような、期待を超えた、商品の開発に取り組んでいます。
そのためには、開発技術者が国内のみならず世界各国地域に行き、自らの目と耳でお客様の声や現地での使われ方を実感し、開発へとつなげる活動を継続して、推進してまいります。

取り組みの基本的な考え方

1. お客様の声に真摯に耳を傾け、お客様目線で、期待・要望を超えた、商品を提供します。
2. デザイン、商品性、性能と、品質・安全等を両立させた商品を提供します。



製品開発の位置づけ

当社は、企画、開発から生産までトータルに手がける完成車両メーカーであり、「もっといいクルマづくり」のために一体となり取り組んでいます。

click 「開発～品質保証まで」

	もっといいクルマづくり				
	お客様の声に応えて				安全・安心な良い品質のクルマづくり
	開発(企画、デザイン、設計)			安全・安心	品質
開発～品質保証まで	製品企画	デザイン	設計	試験評価	品質保証
	お客様の使い方等調査	創造力のあるデザイン	品質の高い設計	実車を製作して、安全性能を確認（例：衝突試験）	全社員に“お客様第一”意識の啓蒙活動を実施（例：品質事例展示会）
	市場調査等から企画を練りあげる	モデルメイキングでイメージを再現	CAE により意匠と性能を両立させた設計	使用・環境条件を想定し、実車での性能を確認（例：悪路耐久試験）	【お客様の評価】JD パワー社の米国・日本 IQS（初期品質アンケート調査）にて好評価

お客様の声に応えて

お客様の期待を超えるクルマを目指して

お客様の声を大切にし、お客様の期待を超える ”もっといいクルマ” を目指して
商品開発に取り組んでいます。
（2015 年 8 月　新型ランドクルーザー、2015 年 9 月　新型ＬＸ　発表）

世界中のお客様の満足を目指して

新型ランドクルーザー /ＬＸは、世界中の過酷地でも使われています。
ランドクルザーはその DNA を受け継ぎながら更なる進化をさせております。
レクサスＬＸは国内市場へ初導入、フラッグシップＳＵＶに相応しいクルマへ進化させています。

現地（カザフスタン）、お客様の使用状況ヒアリングと室内の状況確認

お客様からの貴重なご意見、生の声を大切にしています

お客様からいただく様々なご意見に対し、開発技術者が市場に自ら出かけ、実際の使われ方を見て、お客様から直接話を聞き、開発を推進しています。

＜お客様からのご意見＞
- 室内が広くてよい
- スタイルがよい
- 運転席での見晴らし、視界がよい
- もっと内装に高級感があるとよい　他

ランドクルーザー /ＬＸ　開発担当者の声

製品企画センター　井出　忠信

長年培ってきた信頼性を損なう事なく開発するには、市場での使われ方から得るモノは大きく、お客様目線の大切さを痛感しました。

「更なる質感＆使いやすさ向上」の声に応えて

新型ランドクルーザーはフロント廻りに横基調メッキグリル、LED ヘッドランプ+デイライト。

新型 LX はフロントマスクにレクサスに採用されている特徴的なデザインアイコンとしての大型スピンドルグリルを採用、質感向上を図りました。

インテリアにおいては４．２インチマルチインフォメーション採用、大型リヤシートエンターテイメント、機能集約したスイッチレイアウトにより更に質感＆利便性向上を図りました。

ランドクルーザー

ＬＸ

リヤシートエンターテイメントシステム

■もっといいクルマづくり

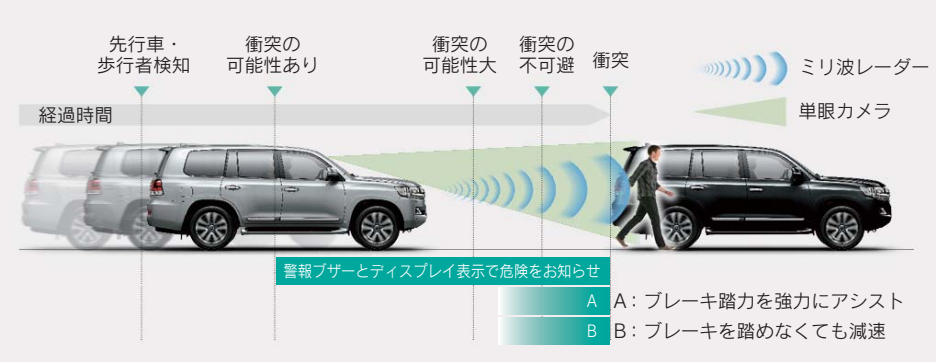
お客様の声に応えて

「更なる安全性能向上」の声に応えて

トヨタの予防安全性能のセーフティセンス装備パッケージの設定　（Toyota Safety Sense P）

【衝突の回避や衝突時の被害軽減】

車両や歩行者を検出し、
衝突回避、被害軽減をサポートします。



【車間距離を保って追従走行】

ミリ波レーダーにより、先行車を認識し、
設定した車速内で車速に応じた適切な
車間距離を保ちながら追従走行ができます。

［定常走行］

希望の車速をセットすることにより
定速走行開始

［減速制御］

自車より遅い先行車を検知すると減速し、
適切な車間距離を保ち走行

【車線逸脱の可能性をお知らせ】　（レーンディパーチャーアラート）

車線を逸脱する可能性がある場合、
ブザーとディスプレイ表示による警報でお知らせします。

【夜間の歩行者の早期発見に貢献】　（オートマチックハイビーム）

ハイビームとロービームを自動で切り替え、
夜間の歩行者などの早期発見をサポートします。

シートアレンジにより、広大なラゲッジルームも可能

3 列目シートは左右分割、折り畳みが可能、2 列目シートをタンブルアップ
格納すると広いスペースができ、大容量の荷物等積載も可能です。

2 列目シート＆3 列目シート格納状態

トピックス

ダカールラリー 2016　市販車部門　優勝

2014 年～ 2016 年　3 連覇！

世界一過酷といわれるダカールラリーにて、
ランドクルーザーの耐久性、走破性、信頼性を
実証しています。

弊社近隣地域の方々などから提供いただいた廃食油を精製した環境にやさしいバイオディーゼル燃料を100% 使用して参戦しています。

click 「ダカールラリー HP」

お客様の声に応えて

お客様の安心、安全のために

世界中のお客様が安心して、そして安全に行きたい所に行って、帰ってくることができる。
そんな車を目指して開発を続けています。

世界中のあらゆる路面、環境で安心して使っていただける車を目指して

世界各国の路面や環境、使われ方を調査

開発者自身が、世界各国の路面状況や環境、使われ方を現地におもむき調査し、お客様のご意見を直接伺い、製品開発につなげるよう取り組んでいます。

〈路面、環境、使われ方調査〉

タイヤが見えないほどぬかるんだ道

未舗装の悪路で大量の荷物を運搬

様々な路面、環境に対する適合性確認

現地調査の結果やお客様の声を元に世界中のあらゆる路面、環境、使われ方を想定し、実験室、テストコース等で適合性の確認を行っています。

強度・耐久性評価 担当者の声

強度実験室　阪本 康二

私は中近東やアフリカで、ランドクルーザーの様々な使われ方を見てきました。ある国では想像を超える環境で生活用品を運んでいるのを目の当たりにし、『どんなに厳しい環境でも故障してはならない』と痛感しました。
今後もお客様の声に応えるべく性能向上に努めてまいります。

〈実験室での性能確認〉

click 「路面状況を再現し車両のダメージ確認」［動画］

お客様の安全のため、衝突回避と万が一の場合の被害軽減を目指して

予防安全

【ＪＮＣＡＰ＊予防安全性能評価で、最高ランクの「ＡＳＶ+」を獲得】

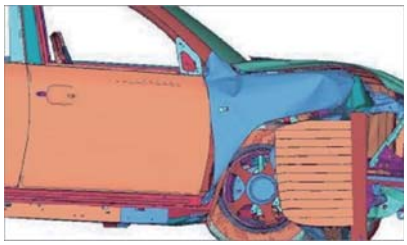
新型ランドクルーザーでは衝突回避支援パッケージ “Toyota Safety Sense P” を新たに装着し、これにより、ＪＮＣＡＰ＊予防安全性能評価で、満点で最高ランクの「ＡＳＶ+」を獲得しました。

＊：自動車アセスメント（JNCAP：Japan New Car Assessment Program）

衝突安全

万が一の際、客室空間を確保するため、キャビンの高強度化や、キャビン前方が折りたたまれるように潰れる構造により衝撃を吸収します。
開発にあたってはCAE解析を駆使し、様々な構造案を検討し、実車の衝突試験で検証しています。

衝突試験



ＣＡＥ解析

click 「安全なクルマづくりの取組みの成果」

お客様の声に応えて

お客様の使用用途に応えた、商用車の開発

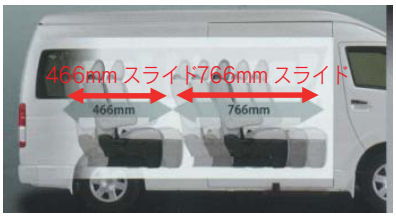
世界の各国 / 各地域でクルマがどのように使用されているかを「現地現物」で観察・分析し、
お客様の嗜好や使用環境を考慮した最適な商品の開発に取り組んでいます。

世界中での使われ方から製品への反映

「こんなハイエースがあったらいいね」の声に応えて

【快適さ＆ゆとりを追及した豪華ワゴンを設定】

日本のみでなく、世界で活躍しているハイエース。
お客様の期待に応えるため、現地現物での調査やお客様情報を早期入手し商品開発へ反映しています。



お客様の市場調査により、送迎用、ツーリズム用にキャプテンシートを４脚装備し、ロングスライド機構でお客様の好みに合わせた乗り心地と室内空間を実現〔東南アジア、中近東向け（'15/1 ～）〕

「こんなコースターがあったらいいね」の声に応えて

【ラゲージスペース拡大】

日本のみでなく、世界で活躍しているコースター。
お客様の期待に応えるため、現地現物での調査やお客様情報の早期入手の強化など、きめ細かく、使われ方・要望を把握し商品開発へ反映しています。

もっと荷物を積みたいとの声に応えて、
後部にラゲージスペースを確保し、観音ドアからスムーズに荷物の積み下ろしが出来るようにしました。
〔 国内 25 人乗り、海外 26 人乗り（' 15/1 ～）〕

トピックス

ハイエース が GOOD DESIN AWARD ロングライフデザイン賞受賞（2015 年 *）

1967 年の誕生以来、約半世紀に渡り、世界の物流と人流を担ってきた。

日本・アジア・アフリカ・中南米など 150 以上の国と地域で、多くのお客様に使用されています。
さらに救急車やウェルキャブとして社会に貢献するとともに、趣味の世界でも様々にカスタマイズされ使用されています。

タフで力強く、シンプルで洗練された機能美を追及したデザイン

あらゆるお客様のニーズに応える多彩な仕様をデザイン

（*：自動車全体では６年ぶりの受賞！
〔WAGON R(2009)、クラウンコンフォート・ジムニー (2008)）

お客様の声に応えて

世界のお客様の多様なニーズに応えるクルマづくり

身体の不自由な方に加え、高齢者、介護者やご家族の皆さんに喜ばれる福祉車両の開発、及び多様な特殊用途車をマーケットインしながら開発、提供に取り組んでいます。

【福祉車両】
全ての方に「移動の自由」と「喜び」を提供

お客様に喜ばれるために、介護施設や高齢者施設を訪問し、実際の使われ方を見せて頂き、ご意見を伺い、製品開発へつなげるよう取り組んでいます。

また、より多くの方に知っていただくため、国内外での普及活動を積極的に行っています。

＜お客様の使われ方を調査し、開発へつなげる＞

お客様の声

・雨の日は短時間で操作したい
・立ち上り時、着座時の足腰の負担が大きい

雨の日の操作性の検証

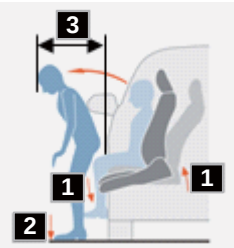
＜立ち上りや着座をやさしくサポートする（回転チルトシート）＞

1 チルトによりお尻の位置が高く保て

2 地面に足が着くため立ち上がりやすい

3 省スペースでの乗降が可能

手動操作とし、短時間での操作を実現



回転

チルト

ユニバーサルデザイン賞を受賞（ドイツ）

＜国内外での普及活動＞

特徴を実車で説明（国内　バリアフリー展）

北京のお客様に福祉車両を紹介（北京国際福祉機器展）

click 「福祉商品ラインナップ」

福祉車両開発担当者の声

特装・福祉センター　稲熊　幸雄

チルト機構追加による乗降性向上や乗車スペースを縮小し一般駐車場での乗降を容易にすると共に、ベース車同等の乗り心地追求など「普通の車」化をキーワードに開発しました。
今後もお客様に本当に喜んで頂ける使い易い福祉車両開発をしていきます。

【特殊用途車】
日々の暮らしのサポート・豊かな暮らしのために

当社の子会社の東海特装車では、お客様の多様なニーズに応えるため、“働く車”や”通勤に・遊びにと多目的に使える車”の提案をしています。

移動販売車

空港作業車

海外向け患者搬送車

click 「特装車商品ラインナップ」

click 「東海特装車の活動」

■もっといいクルマづくり

お客様の声に応えて

トピックス

「わ～くわくドッキドキするクルマづくり」を目指して、東京モーターショーへ出展！

商品の開発のために将来を見据えたコンセプト車を出展

全社一丸となって、クルマの個性がお客様の新たなライフシーンを開拓することを主眼に出展コンセプトを ‘Active Life Vehicle ～新たなライフスタイル、個性際立つクルマ～“ とし、5 つのクルマで表現しました。

The 44th TOKYO MOTOR SHOW 2015

解放感に満ちた上質な室内空間を備えたオープンクルーザー

＜ALPHARD Hercule Concept＞

最大級の空間を贅沢に味わうナイトエクスクルーシブワゴン

＜HIACE PLATINUM LOUNGE＞

アーバンライフとアクティブライフに対応した７シータークロス

＜NOAH ACTIVE CROSS＞

ランドクルーザー 70 シリーズに先進的なスタイルをクロスオーバー

＜LAND CRUISER XJ700＞

人とクルマと社会をつなげるマルチパーパス小型モビリティー

＜Coms CONNECT＞

東京モーターショー出展担当者の声

デザイン部　　尾上　賢一

お客様からも多くの反響をいただき、大変好評の内に無事終えることができました。今後ももっといいクルマづくりを目指して、お客様に喜んでいただける提案を行っていきたいと考えています。

click 「15 年度東京モーターショー HP」

お客様の声に応えて

新しいクルマ社会の実現に向けて

低炭素社会の実現を目指し、コムスを活用した様々な実証実験が始まっています。
水素社会の先駆けになるトヨタの燃料電池車基幹部品の開発・生産に取り組んでいます。

コムスを利用した新しい社会・暮らしが全国各地に広がっています

配送、営業の新しい“足”として環境にやさしいコムスが活用されています

店内商品の自宅配送に活用
（セブンイレブン様）

定期配送に活用
（ヤクルト様）

営業の足として活用
（名古屋銀行様）

国土交通省の「超小型モビリティ認定制度」を活用した実証実験

より幅広いコムスの使い方を目指し、国土交通省の「超小型モビリティ認定制度」を活用した、積載量を UP した配送用のコムスや、行政サービス・シェアリング用途としての２人乗りコムス等の実証実験が行われています。

click 「広がるコムス」

２人乗りコムス（シェアリング）

集配に活用（日本郵便様）

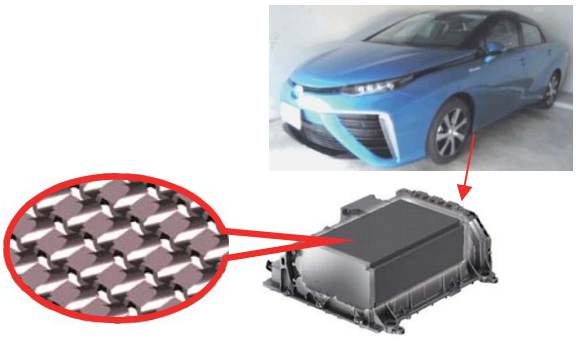
究極のエコカー実現に向けて

燃料電池基幹部品の開発・生産

トヨタ自動車が昨年発売した燃料電池車「MIRAI」の燃料電池スタック基幹部品に、当社が開発した世界初となる「3D ファインメッシュ流路」が採用されました。
また、当社独自の超精密プレス加工技術を用いて開発部品の生産を行っています。

より多くのお客様のお役に立てるよう、現在段階的な生産増強を図っています。

＜トヨタ燃料電池車「ＭＩＲＡＩ」＞



3D ファインメッシュ流路（一部拡大）　燃料電池スタック

（画像提供：トヨタ自動車株式会社）

■もっといいクルマづくり

良い品質のクルマづくり

お客様を第一に考え、良い品質の商品をお届けします

私たちは、お客様に安全で安心して使って頂ける世界 No.1 品質の製品づくりを目指しています。
世界中のお客様の声を現地現物で確認し、日々の改善・未然防止活動の推進とあわせて、
「品質は企業の生命線」であるという思いを全社員で共有しています。

お客様第一を全社員で実践するために

全社員へ「お客様第一」「品質第一」を浸透するために、階層別の品質教育とともに、品質講演会・品質事例展示会などを定期的に開催しています。

2015 年度の品質講演会は当社創立 70 周年の節目として、品質保証部門担当役員が「**お客様の笑顔のために**」と題して講演し、当社の品質のこれまでの取り組みを振り返り、将来に向けた取り組みの方向性を共有しました。

＜品質講演会＞

講演を聞く参加者

＜品質事例展示会＞

現物を使った事例展示会

開発段階での「いいクルマづくり」

当社では、開発段階から、開発・生産技術・生産・取引先様が連携して、つくりやすさにこだわった作業の追求を進めてきました。

＜新型 LX での設計段階の改善事例＞

＜新規設計部品の作業性改善＞

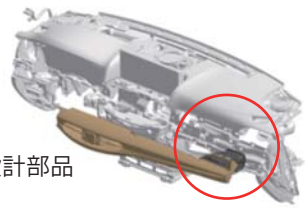
インパネ組立工程

＜作業者の声＞

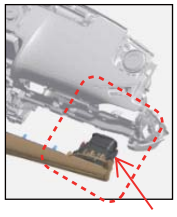
長い部品なので、片手で持ったまま裏の配線をつなぐ作業をすると、インパネに傷を付けてしまう恐れがあります。

＜改善内容＞

・開発・生産技術・生産部署が現物で確認し、改善実施



新規設計部品



仮置き形状部位

吹出し口のダクト形状を延長し、長い部品でも仮置きができるように改善

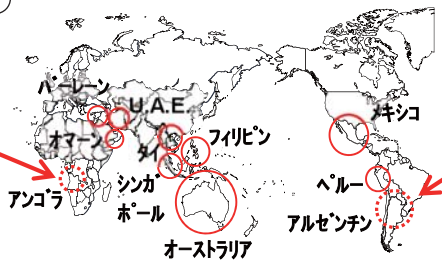
お客様の声を製品へ反映する

トヨタ自動車と連携して、世界中のお客様の生の声を入手し、製品開発に反映しています。
2015 年度は当社の品質保証部門の担当者自らお客様・市場ニーズを現地現物で把握するため、主な商用車市場の世界 5 地域（11 ヶ国）での調査を行いました。

＜品質保証部門によるお客様の声の現地現物調査例＞

お客様は外観の“錆”に敏感・・・

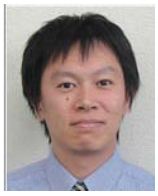
代理店と市場情報の共有
（アンゴラ）



ハイエースやランクルは絶対的な信頼がある・・・

お客様へのインタビュー
（アルゼンチン）

現地調査担当者の声



品質保証部
酒井 喜紀

今までに行ったことのない国々でのインタビューや情報共有で、品質へのお客様の貴重なご意見を聞くことができました。今後もお客様第一で品質向上活動を進めます。

click 「品質の取り組み具体例」：自工程完結活動、EDER 活動、お客様の評価

■もっといいクルマづくり

良い品質のクルマづくり

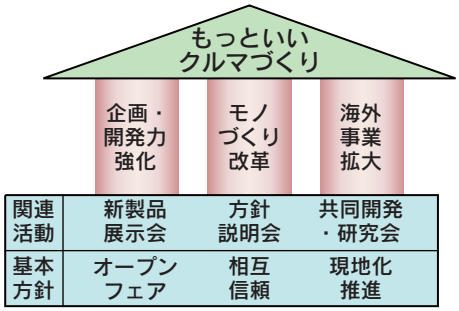
取引先様とともに「いいクルマづくり」を目指して

オープンでフェアな取引を推進し、取引先様との相互信頼にもとづく共存共栄をめざした調達活動の実践により、もっといいクルマづくりに取り組んでいます。

調達の基本的な考え方

当社との取引を希望される国内外の全ての取引先様に対して国籍・企業規模・取引実績の有無を問わず公正かつ公平な参入機会を提供しています。

そのために、当社では「調達の基本方針」を定め、調達活動をグローバルに展開し、取引先様と一緒にお客様第一を推進しています。

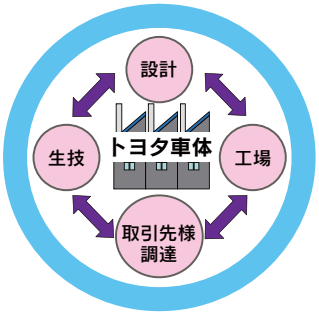


もっといいクルマづくりに向けて

「もっといいクルマづくり」を目指して

商品開発やものづくりを全てのサプライチェーンの皆様と一体となり提案

モデルチェンジを迎える車に対し、幅広く参入機会をつくることに加え、当社のクルマづくりを知って頂くために、取引先様に部品を見ていただく部品検討会を開催し、全てのサプライチェーンの皆様と当社が一体となり、いいクルマづくりに向けて提案活動をしております。



四位一体化によるもっといいクルマづくり
（クロスファンクション開発オペレーション）

１次・２次取引先様も含めた部品検討会

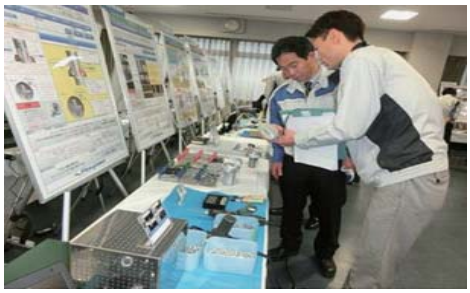
取引先様との情報共有

当社の動向や調達活動方針を 取引先様と共有するため、「調達方針説明会」（毎年３月）を初め、「経営講演会」（２回／年）、「CSR 勉強会」（２回／年）などを開催しております 。

また、取引先様への期待を明確にするため、「仕入先 CSR ガイドライン」・「グリーン調達ガイドライン」を作成し展開しております。

click 「仕入先 CSR ガイドライン」（2013 年改訂）

click 「グリーン調達ガイドライン」（2016 年 5 月改訂）



取引先様による展示会

調達活動を支える取り組みについて

取引先様も参加しての勉強会による啓蒙活動

取引先様の協力会である「車体協和会」での研究会及び展示会や災害ゼロ化に向け「輸送研究会」・「安全衛生連絡会」など各種活動の勉強会を通した啓蒙活動を実施しております。

取引先様へのアンケート調査による調達活動への反映

オープンでフェアな取引と相互信頼をより強化する為に当社の調達活動を約 340 社の取引先様に評価していただき、ご意見・ご要望をお聞きしながら今後の調達活動に反映しております。

「安全研究会」による相互研鑽

■人づくり、職場づくり

「いいクルマづくり」に向けた人づくり、職場づくり

お客様に“喜び”と“満足”を感じていただける「いいクルマ」を提供するためには、社員一人ひとりの持続的な成長と、働きやすい環境、活力ある職場で、いきいきと働くことが大切であると考えます。
当社では、先人から引き継がれてきた、仕事をする上で大切にすべきことを『私たちの大切にするもの』としてまとめ、その心を理解し、実践することにより、仕事を通じた意識醸成に取り組んでいます。

職場風土、意識改革
「私たちの大切にするもの」の浸透・定着活動

大切にするものの心の理解を深めるために、日常の行動宣言やｅラーニングを実施し、定着活動に取り組んでいます。

【Basic MAP：私たちの大切にするもの】

お客様第一

モノづくりを通じてお客様に喜びと満足を感じていただける商品・サービスを提供するために、常にお客様を第一に考えて行動

業務のプロセス

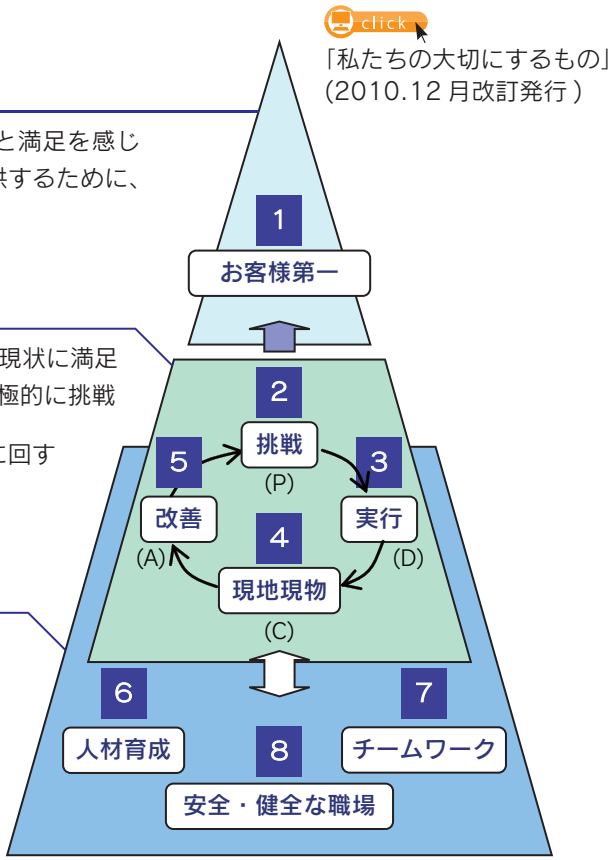
常に 1 ランク高い目標を設定し、現状に満足することなく、自ら新しい課題に積極的に挑戦

業務のプロセス（ＰＤＣＡ）を確実に回す

活力ある職場

従業員一人ひとりのしあわせと安全で健全な職場をつくる

人材育成・チームワークといった人と組織のベースとなる部分をしっかりさせる



「私たちの大切にするもの」
（2010.12 月改訂発行）

1.お客様第一
- ■全てはお客様の満足のために
- ■自工程の役割を完結する

2.挑戦(P)
- ■ベンチマーク　■チャレンジ

3.実行(D)
- ■役割を自覚する
- ■スピーディーに最後までやり遂げる

4.現地現物(C)
- ■現地現物で観察する
- ■なぜなぜを繰り返す

5.改善(A)
- ■絶え間ない改善
- ■失敗を糧とする

6.人材育成
- ■人を育てる　■自らを高める

7.チームワーク
- ■役割を自覚し協力し合う
- ■正直・バッドニュースファースト
- ■聞く耳を持つ

8.安全・健全な職場
- ■安全意識　■ルール遵守
- ■倫理観

「私たちの大切にするもの」の浸透・定着に向けて

報告会や会議の前に、自ら取り組む「大切にするもの」の行動宣言をすることで、理解を深め、意識の浸透を図っています。

工場見学者への会社説明時の冒頭での行動宣言

■人づくり、職場づくり

世界に目を向けチャレンジ精神あふれる自律的な人材づくり

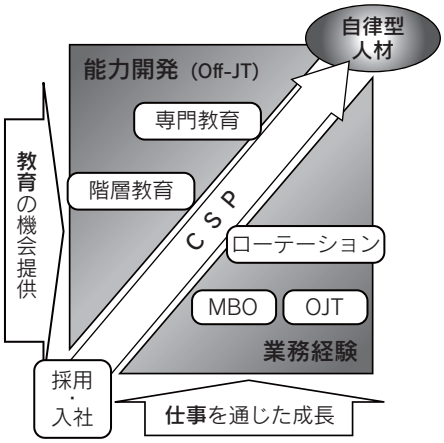
中長期的な視点から人材育成するしくみを構築し、自ら考え、自ら行動できる『自律型人材』の育成に取り組んでいます。また、グローバルに活躍できるプロ人材の育成も推進しています。

人材育成の基本的な考え方

当社は、社員一人ひとりが将来の目指す姿・目標を持ち、主体的にいきいきと働く「自律型人材」の育成に力を入れています。

個々人に目を向けて、育成を計画的にサポートすることを目的とした「キャリアサポートプログラム(CSP)」を運用し、個々人の育成を促進しています。

個人の成長を促進・サポートする仕組み



〔キャリアサポートプログラム〕

会社・上司・本人が一体となり個人の育成をサポートする仕組み。
育成計画、育成基準、育成施策から構成され長期・中期・短期の視点から育成を図っている。

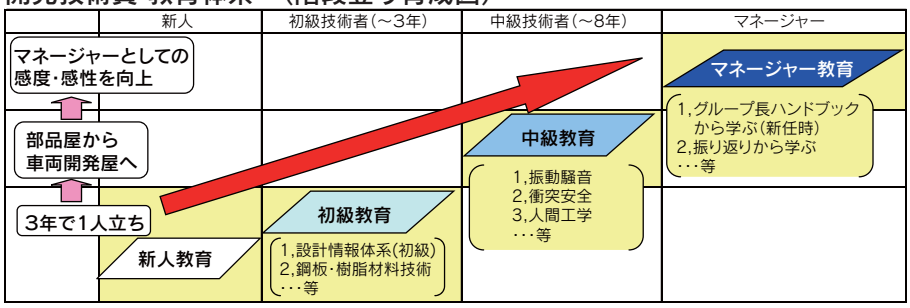
プロ人材の育成

技術開発のプロ人材

技術開発教育は、講義ルームと教育展示場、CAD 教育場を使って、最新の実務に即した教育を現地・現物で、体感しながら実施しています。

１年目の新人教育後、職場 OJT と 3 年目の初級教育、5 年目以降の中級教育、グループ長のマネージャー教育へと、ステップアップする教育により、更なる開発力強化を目指しています。

開発技術員 教育体系　（階段登り育成図）



現物を使った新人教育

初級教育（CAD *）
* CAD：Computer Aided Design

中級教育（衝突安全）

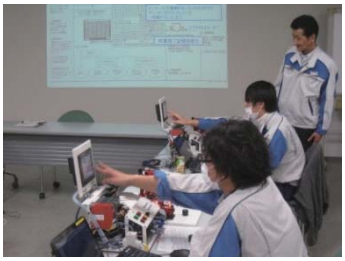
マネージャー教育
（グループ長研修）

生産技術のプロ人材

世界トップレベルのミニバン・SUV・商用車造りを目指し、現地現物での技術教育を実施しています。

１年目の新入社員教育では車両分解などの基礎技術教育を、２年目以降は先輩について仕事の仕方、物の考え方を学びます。また各階層に合わせた技術教育を行い、生産技術力の向上に取り組んでいます。

新入社員教育（車両分解）


中堅社員教育（電気制御）

■人づくり、職場づくり

プロ人材の育成

生産のプロ人材

お客様の安心と信頼を得るため技能系社員の教育と訓練を実施しています。更なる技能向上を目指し、技能研鑽・技能伝承の取り組みも積極的に行っています。

【新人教育】

職場配属前に専任トレーナーによる『基本技能訓練』を実施します。社員としての責任・安全意識醸成のため、基礎知識教育にも力を入れています。

また、将来のリーダー育成を目指しチャレンジ精神のある人材を選抜して『技能五輪』に参画しています。

【中堅社員教育】

資格に応じた技能と知識教育を段階的に実施し、実践に必要な原理原則については繰り返し修得するよう教育を実施しています。

【技能研鑽】

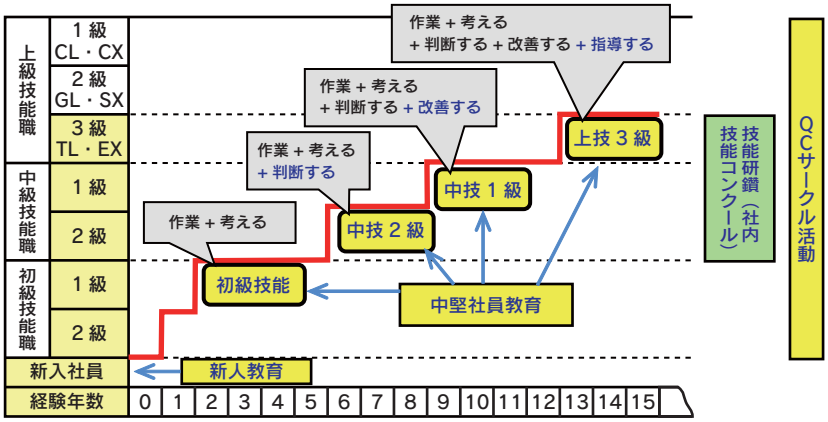
研鑽の場として国内外子会社も参加する『社内技能コンクール』を開催。ボデー・塗装・成形・組立・保全動力などの１０職種で競い合い技能向上を目指し取り組んでいます。

海外生産でのプロ人材育成

モノづくりの伝承のため、海外子会社の現地技能員の育成にも取り組んでいます。

日本人技能トレーナーの現地派遣や、現地ローカルトレーナーを日本で教育しています。

技能系社員 教育体系（階段登り育成図）



＜新人 基本技能訓練＞

専任トレーナーによる指導

＜技能五輪＞

技能五輪全国大会　自動車板金
（2015 年千葉大会）

＜社内技能コンクール＞

成形職種

保全・動力職種

＜海外人材育成＞

日本で教育（マレーシア）

現地に派遣して教育（アメリカ）

現場力、チームワーク向上に向けて

活動の原点である「明るく楽しく元気よく」の職場を目指し職場力の強化に取り組んでいます。

ＱＣサークル活動

昨年、ＱＣサークル活動５０周年の節目を契機に国内外の全関連会社の質向上に取り組み、更なる発展に繋げています。

社外ＱＣサークル大会（全日本選抜大会）

国内最高峰の全日本選抜大会で『本部長賞金賞』をいなべ工場が５年連続で受賞しました。（日本初）

＜トヨタ車体グループ大会＞

海外関連会社の発表の様子
（APMM：アメリカ）

＜全日本選抜大会＞

金賞受賞のレインボーサークル
（いなべ工場塗装課）

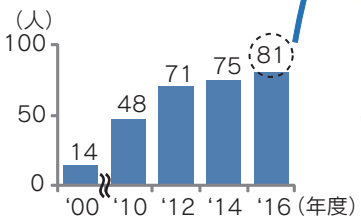
■人づくり、職場づくり

プロ人材の育成

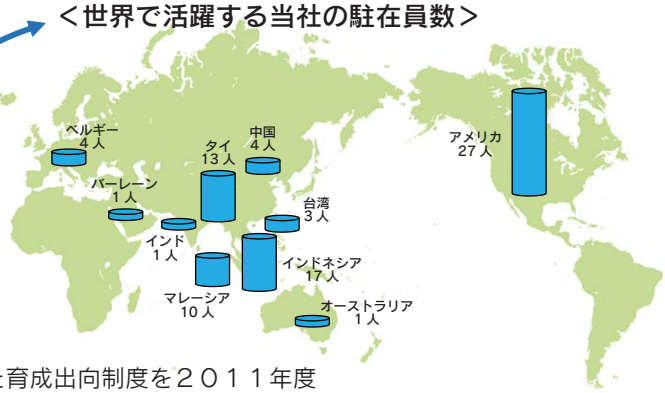
グローバル人材の育成

オールトヨタ車体グループ全体の海外事業拡大のため、グローバル人材育成の充実に取り組んでいます。

＜海外駐在員の推移＞



＜世界で活躍する当社の駐在員数＞



【海外育成出向】

海外事業展開に対応出来る人材の早期育成策として若手社員を対象とした育成出向制度を２０１１年度より導入しました。これまでに３２名の若手社員を海外事業体へ派遣し、帰任後は育成出向の経験を活かし海外関連業務に従事し、活躍の場を広げています。

＜2016年1月～ 研修中の５期生＞

生産管理部　生産管理室
中野　翔平　（タイ：TMAP-EM）

生産状況について現地スタッフへ説明する中野さん(右から2番目)

海外での仕事を通じ、コミュニケーションの難しさだけでなく、文化や環境の違いから生じる生産課題も学べています。
この貴重な経験から得た知識や課題認識を、日本に帰ってからの業務に生かしたいと思います。

Ｉ組立部 技術員室
清水 智朗
（北米：APMM）

工程管理について現地スタッフに確認する清水さん(手前)

人事部　人事室
高柳 健太郎
（インドネシア：TMMIN）

現地スタッフと協力し賃金交渉の対応を検討している高柳さん(右から2番目)

【デザイン研修出向】

デザイン部ではトヨタ自動車の北米デザインスタジオ(CALTY) に研修生を派遣しています。

年々増加するグローバルプロジェクトに対応するため、グローバルで戦えるアイディア発想力、表現力、プレゼン能力を実践を通じて養成しています。

ローカルスタッフとデザインのアイデアを検討する研修生（右端）

【海外実習生の受入】

当社では、海外事業体の自立化を推進するため現地のリーダー候補を対象に日本での「グローバル実習」を実施しています。

今年度からは、ライン実習を通じ、安全・品質への拘り、面倒見規律の良さを体感する「技能コース」がスタートしました。

実習生といなべ工場受入職場のみなさん
（グローバル実習開講式）

【海外コミュニケーション能力の向上】

当社では、海外で通訳なしで業務遂行できるレベルを目指し、海外支援者を対象に英語研修を実施しています。

ネイティブ講師による技術指導英語を中心とした事技コースと基本的な英会話や技能指導英語を学べる技能コースを実施しています。

ネイティブ講師と会話を通じて
英語力アップを図る（刈谷研修所）

技能員の英語研修の様子
（技能研修センター）

「活力ある職場づくり」に向けたコミュニケーション活動

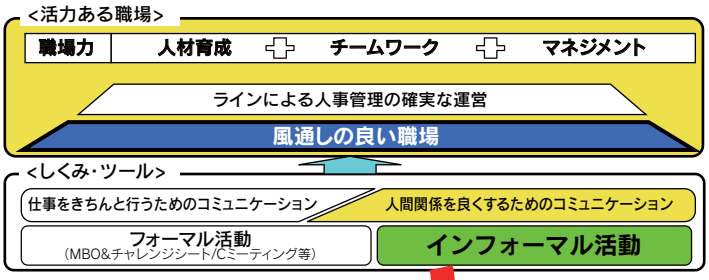
社員一人ひとりの幸せと会社の発展を支える活力ある職場風土をつくるため、フォーマル・インフォーマル両場面でのコミュニケーションの活性化、一体感の醸成を図っています。

明るく楽しく元気良い職場をめざして

フォーマル活動として、上司との面談や小集団活動などを通じて、また、インフォーマル活動として、各種イベントを通じて、職場や職位の枠を超えたコミュニケーションの充実や一体感の醸成を図っています。

特に、2015 年度は会社創立 70 周年感謝の年として、ルーツや仲間へ感謝するとともに感謝の気持ちで未来へ夢をつなぐ活動を活発に行いました。

コミュニケーション活動を通じた活力ある職場づくり



【全社】

1 万人以上参加した全社運動会「ふれ愛・運動会」

関連会社も参加した
「トヨタ車体グループ フットサル大会」

スポーツクラブ応援

【オールトヨタ】

各社対抗スポーツ大会など、多彩な
催事の「オールトヨタビッグホリデイ」

【事業所別】

事業所の特色をいかしたイベントの開催　富士松地区 HAPPY FESTA

いなべ工場 感謝の一文字

吉原工場 家族工場見学会

【部門別】

開発部門　駅伝大会

生産部門 餅つき大会

トピックス

男子ハンドボール部が日本選手権で４年ぶり２度目の優勝

歓喜の胴上げ

click 「スポーツクラブ　ハンドボール」　click 「スポーツクラブ　バレーボール」

ダイバーシティの推進と良き社会人であるための意識啓蒙

多様な人材が安心していきいきと働けるよう、ダイバーシティに対する取り組みを推進しています。
また、良き社会人であるための意識づくりにも努めています。

ダイバーシティに対する取り組み

高齢者の働き方支援

〈働きやすい工程づくり〉
すべての人がいきいきと働き続けられることを目指し、誰でも働きやすい「らくらく工程づくり」を推進しています。

〈体力低下防止に向けた意識改革の場づくり〉
40 才･50 才の方を対象に「意識づけセミナー」を開催し、「働き方」、「資産形成」、「体力づくり」に関して早い段階から計画的に考える機会を設定しています。

体への負担の少ない作業改善例

意識づけセミナー（体力づくり）

障がい者の雇用促進

2015 年度の障がい者雇用率は 2.24%、180 名が正社員として勤務しています。

入社を希望する高校生向けの「インターンシップ」や配属職場の上司を対象とした「手話教室」などを実施し、障がい者の活躍支援に積極的に取り組んでいます。

インターンシップでの作業体験

手話教室

女性の活躍推進

2016 年 4 月施行の女性活躍推進法に基づき、女性従業員同士が働き方やキャリア開発に関して情報交換できる場として「女性従業員による座談会」を設定し、相互研鑽を支援しています。

また、仕事と育児の両立を図るための支援策として、社内託児所「たっちっちハウス」の設置や、短時間勤務制度、育児休職制度など、従業員が働きやすい環境整備を進めています。

女性従業員による座談会

たっちっちハウス

click 「妊娠・出産から子育てにわたるサポート」

良き社会人であるために

人権意識の深化

「個人の尊重」の意識向上をねらい、同和問題や女性・外国人の人権等、様々な人権課題についての社内教育を、全社員に対して行なっています。
また、社外研修にも社員を積極的に派遣し、部落問題をはじめとする人権問題のスペシャリストの養成にも力を入れています。

社内教育（新人研修）

社外研修

コンプライアンス・防災意識の高い「健全な職場づくり」を推進

全社員のコンプライアンス意識の向上を目指して

ＣＳＲ委員会の下部組織として「企業行動倫理委員会」を設置し、法令遵守のしくみ充実、健全な企業風土の構築に向けた活動について審議・方向付けを実施し、トヨタ車体グループのコンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。また、社員へのコンプライアンス徹底のために、「私たちの約束すること（グループ行動指針）」を教育・研修などの場を通じて継続的な徹底を図っています。

click 「トヨタ車体グループ行動指針（2005.3 月発行）」

コンプライアンス徹底に向けた取り組みの充実

ビジネスがグローバル化する中、トヨタ車体グループ全体で国内外のコンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。

国内においては、主体的にコンプライアンス活動を推進できるツールを整備し、啓発活動や定期的なモニタリング活動を実施するなど、活動の維持・向上を図っています。

海外においては、国内の取り組みをベースに従業員の意識向上に向けた取り組みや海外赴任者への教育を実施しています。

〈国内コンプライアンス活動〉

社内報を活用した
コンプライアンス啓発活動

〈海外コンプライアンス向上への取り組み〉

社外講師（弁護士）を招いた海外赴任者
向けコンプライアンス研修

大震災で本当に使える総合防災訓練を目指して

リスク管理の一環として、南海トラフ地震による大規模被災を想定した対策の充実強化に、トヨタ車体グループとして取り組み、防災委員会を 2014 年にＢＣＭ* 委員会に進化させ、減災・初動対応・生産復旧計画の整備を進めています。

〈BCM活動の基本方針〉

(1) 人道支援（人命第一・救援）
(2) 被災地の早期復旧
(3) 自社の業務復旧

〈推進体制、主な活動〉

ＢＣＭ委員会
- 減災：建屋、設備の耐震対策
- **初動：初動対応体制の構築、安全な避難および安否確認の訓練、**地域連携
- 復旧：全社業務・生産復旧体制の強化、サプライチェーンの強化

初動、総合防災訓練（当社）

2015 年は、より実践的な訓練にするため、「けが人の手当て、リヤカーを使った搬送」や「避難経路の一部が使用できないケースの想定」、「迅速に行動しやすい小グループ屋外避難」を織込み、「各職場で安否を集約し、全社災害対策本部へ連絡する訓練」を全事業所で実施しました。

初期消火訓練

全員が屋外避難場に集合
→安否集約と防災隊隊長への報告訓練

リヤカーによるけが人の搬送訓練

三角巾にて応急処置訓練

*：Business Continuity Management（事業継続マネジメント）

安全第一を最優先に「安全な人と職場づくり」を推進

トップの安全第一の場づくりと社員一人ひとりの安全感性を高める活動の強化など
取引先様、海外子会社全てでゼロ災害を目指し活動を推進しています。

全社員の安全

トップ訓示で伝える安全第一

全社安全大会で「安全活動の基本を大切に」を役員・部課長及び関係子会社を含め全員で唱和し災害ゼロの実現を誓い合いました。

また、安全で名高いデュポンの講師を招き講演会を実施、更に安全に対する意識が向上しました。

2015 年 7 月全社安全大会

2015 年 12 月 安全講演会

全社員の安全感性を高める活動

指差呼称、手すりを持つなど 5 つの基本行動を一人ひとりが自分の身を守るために「ポ・ケ・手・な・し」活動を展開しています。

2015 年には、創立 70 周年を迎えた事を機に『安全のしおり』を全従業員に配布し当社の安全活動や先人の苦労を全社員が共有・確認することが出来ました。

また、自らの工程で想定される危険と回避策を、その場で瞬時に抽出できるかを監督者がチェックするなど、技能員の感性向上に取り組んでいます。

「階段での手すり」
ポ・ケ・手・な・し活動

『安全のしおり』

自工程のリスクを作業者が
言えるかをチェック

取引先様の安全

当社敷地内における災害ゼロに向けて取引先様と連携した安全協議会の実施、輸送業者の方においてはフォークリフトの勉強会を実施し、災害防止を推進しています。

安全協議会による安全唱和

フォークリフト勉強会

海外事業体の安全

設備設置工事における安全の為、末端の作業者まで巻込んだ工事前ミーティングを実施、確実な危険予知を実施する事で災害防止に取り組んでいます。
また、作業前の朝礼時には円陣を組み安全唱和を実施作業中の無災害を誓い合っています。

設備設置前ミーティング
マレーシア（ＴＡＢＭ）

朝礼時の安全唱和
インドネシア（ＲＰＴ）

4S 活動

click 「安全体感道場 (TABMEC)」

click 「安全のしおり」

click 「安全衛生基本方針」

click 「労働災害発生状況」

社員の心身両面の健康をめざして

もっといい車づくりをしていくためには、社員が健康であることが重要であると考え、“こころ”と“からだ”の健康で充実した会社生活をおくれるよう、きめ細かいフォローを推進しています。

健康で充実した会社生活をおくるために

従業員一人ひとりが自立的に健康保持増進のできる人づくりを目指して、メンタルヘルスの保持増進、生活習慣改善（メタボ予防）、禁煙活動、がん対策を重点として活動を推進しています。

また、製造業に多い腰痛対策の指導会や健康保険組合のウォーキングイベント、全社運動会とタイアップして家族も参加できる健康づくりイベントを開催しています。

健康運動指導士の腰痛予防指導会

健康ウォーク（家族参加型）

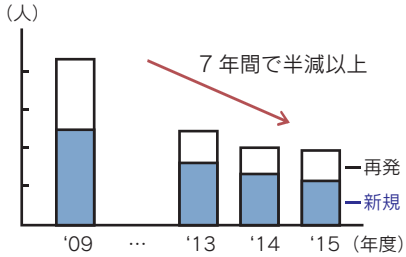
親しみの持てる心の相談室を目指して

富士松・いなべ・吉原工場へメンタルヘルスの専門家である臨床心理士を配置し相談体制を整備しています。

また、従業員がこころの健康相談に来てもらえるように、健康イベント、精神科医による基幹職への講演会、職場別教育などで臨床心理士自ら窓口を紹介し、相談しやすい雰囲気づくりを進めています。

職場での対応へ理解を深めるための職場別メンタル教育

メンタル休業者の推移



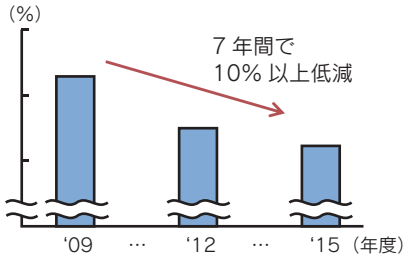
健康な習慣を身に付けるために

生活習慣を見直すきっかけを与えるため、家族も参加可能な形で全社運動会とタイアップして健康測定会を開催しています。

また、禁煙意欲のある人に会社と健康保険組合が治療の費用補助するなど支援を行い喫煙率は着実に低下しています。

禁煙外来での喫煙者の肺画像を使った禁煙指導

喫煙率の推移



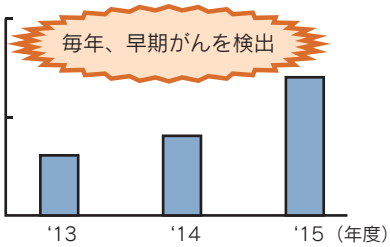
がんの早期発見対応のために

35 歳以上の方へは大腸がん検診（便潜血検査）、40 歳以上の方へは胃がん検診（胃バリウム検査）を自己負担なしで実施し、毎年早期がんを検出し、適切な治療を実施できるよう外部医療機関へ紹介しています。

また治療後の職場復帰時には産業医と職場で状態を確認し、円滑な職場復帰を推進しています。

最新の胃透視装置を使ったバリウム検査

社内検診でのがん検出数



■社会貢献

社会から必要とされる企業を目指して

社会から必要とされる企業であるためには、企業として社会的責任を果たし、地域のみなさんから信頼されることが大切であると考えます。
わたしたちは、トヨタ車体グループらしさを活かした領域（環境・福祉・次世代育成）で、社会貢献活動の充実に取組んでいます。

環境分野での取組み

企業の森整備活動

愛知・三重・鹿児島・インドネシアなどの事業所の所在地を中心に、トヨタ車体グループ企業の森整備活動を継続的に行っています。

【国内】

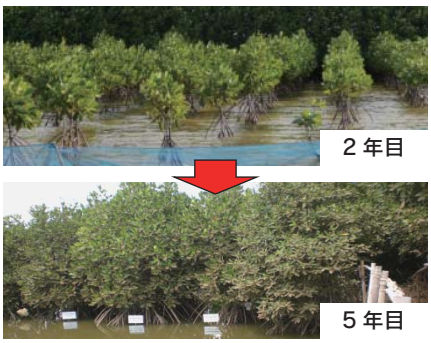
愛知企業の森整備活動では、社員自らが指導者となり、初めて参加する方にも、安全に間伐・森林整備が体験できるよう、ボランティアサークルメンバーを中心に取り組んでいます。

社員指導者より森林整備を学ぶ

安全な間伐活動・道具の使い方

【海外】

インドネシアの植林活動は、マングローブ植林を通じての環境保全に加え、再生したマングローブ水域での、魚介類・海藻類の養殖を通じて、地域経済向上にも貢献しています。



エビ・カニや海藻類が養殖できるまで水辺も回復

福祉分野での取組み

トヨタ車体グループによる絵本の寄贈

当社 100% 子会社のスギティークリエイティブスでは、日本の絵本を翻訳し、現地の子どもたちに寄贈しています。

2009 年より毎年実施しており、2015 年までで累計 4 万冊を超える絵本を寄贈しています。

植樹イベント式典にて絵本の贈呈

翻訳寄贈された絵本を読む子どもたち

従業員のボランティアによる移送サービス

当社製品である福祉車両を使って、日頃外出機会の少ない方々の外出支援として、移送サービスを実施。
いなべ市社会福祉協議会とトヨタ車体「社会貢献いなべブロック」「外出支援サークルボランティア」メンバーが協働で、車いす利用者の外出支援活動を、継続し実施しています。

いなべ市の車いす利用者の方々を、当社福祉車両で津市の「三重県総合博物館」に案内しました。

■社会貢献

福祉分野での取組み

障がい者支援活動への積極参加

富士松ブロック並びに施設慰問サークルボランティアメンバーが、高齢者介護施設での慰問活動として、フラダンス・手品など腕前披露や、車イス・介護機器・福祉車両清掃などを通じ、障がい者支援活動を行っています。

フラダンス披露で高齢者との交流

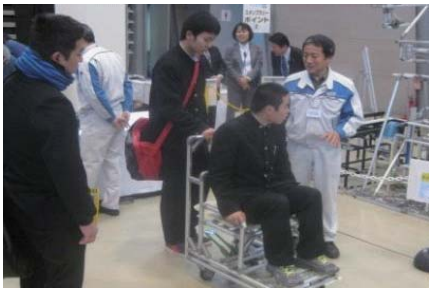
車イス清掃は年６回､5 年前より活動

次世代育成分野での取組み

小中学生の、ものづくり育成に向けて

次世代育成活動の取り組みとして、青少年に｢ものづくりの面白さ・楽しさ｣を学んでもらう場を提供。社内で培ったノウハウを活かし、刈谷市、知立市、豊田市での『からくり改善工夫展示会』に出展しました。

豊田市『からくり大集合』出展（基本機構）


『からくり展 in 刈谷』への改善事例出展

小学５年生社会科授業・自動車工場見学の受入

完成車両メーカーである当社は、小学５年生社会科（わたしたちと工業生産・自動車づくりを調べよう）の授業として、広く県内外の小学校の工場見学受入を行っています。
３工場合わせ、年間 90 校、6,000 名もの小学生受入れを行っています。

安全を配慮し見学

見学後にたくさんの質問も

スポーツを通じた次世代育成

刈谷市の青少年スポーツへの支援として『トヨタ車体カップ少年サッカー大会』を 21 年前より協賛し、大会運営サポートを行ってます。
また、ハンドボール部主催で、県内外中学生チームを招待し『TAB Cup』ハンドボール大会を開催し、当社部員が大会運営を務めるなど、選手とのふれ合い、スポーツの普及にも貢献しています。

刈谷市内４年生 500 名が参加しての大会

部員は審判を担当し参加者と交流

寄付協賛による社会貢献

トヨタ車体創立７０周年を感謝し､事業所所在地・近隣市町に当社製品の福祉車両４台を寄贈いたしました。

寄贈先：刈谷市・いなべ市・豊田市・知立市

いなべ市での贈呈式

刈谷市での贈呈式

地域とふれあい、生物多様性を学ぶ憩いの『刈谷ふれ愛パーク』

施設を活用した、地域貢献・地域連携

ふれ愛パークでの環境教育・農業体験などパークの運営について、地域・外部専門家・近隣学校・県市などの行政・地域農業指導者などで構成する『ふれ愛パーク地域連絡会』を組織し、活動を一過性で終わらせず、永続的に続けるために協働をはかり、地域との“ふれ愛”の場を目指しています。

地域と連携した農業体験学習では、社員並びに地域の農業指導者が先生となり、小学４年生の社会・総合学習授業の一環として、苗づくり、田植え、稲刈り、脱穀、餅つき、わらを使ったしめ縄づくりと、年間を通じて農業・稲作体験学習を行いました。

どの児童も、泥田に入っての田植え、カマを持っての稲刈り、しめ縄づくりなど今まで経験できなかった事を学ぶことができ、更に水田の役割など環境についても学ぶ事ができました。

click「刈谷　ふれ愛パーク」

社員による稲作青空教室

田植え体験

稲刈り体験

地域連絡会メンバーの声

富士松東小　野村校長先生

屋外授業の場として貴重な体験ができ、子供達も喜んでいます。
連絡会では学校地域からの意見も取り入れていただき感謝しています。

産官学民連携による環境学習

「ふれ愛パーク」を会場に、行政・大学・近隣小学校、地域と連携した環境学習会を開催。
講師は、愛知教育大学助教並びに理科専攻学生にお願いし、県内小学生家族の皆さんを対象に、水辺の植物や水の浄化など自然をテーマに学習会を開催しています。

講師の助教（右）と愛教大学生（左）

植物の葉の観察

トピックス

２０１６愛知環境賞　銀賞受賞！

『子供たちの未来へつなぐ、ふれ愛パークプロジェクト』

・地域連携、地域に根付いた環境学習推進活動が評価されました。（2016.2月受賞）

【2016 愛知環境賞　受賞記念植樹会】

受賞を記念し、愛知県副知事、当社役員、社員・地域代表、社員家族で記念の植樹、花壇の花植え等を行い、喜びを分かち合いました。

協力頂いた方との記念植樹

植樹会では社員家族も花植え

■地球環境にやさしく

生産技術本部・生産本部 統括
取締役副社長　石黒　明二

地域と共生、自然と調和する工場を目指して

当社は基本理念に“環境との調和”を掲げ、『第５次トヨタ車体環境取り組みプラン(2011 ～ 2015 年度)』を推進し、実現してまいりました。
2016 年度からは、社会・地球の持続的な発展を目指し、長期視点で新技術の導入や全員活動をグローバルに展開・チャレンジする『第６次トヨタ車体環境取り組みプラン(2016 ～ 20 年度)』を策定し、新たな活動に着手しています。

トヨタ車体環境基本方針　(1993 年制定　2004 年改訂)

❶豊かな 21 世紀社会への貢献

豊かな 21 世紀社会へ貢献するため、環境との調和ある成長を目指し、事業活動のすべての領域を通じて、ゼロエミッションに挑戦します。

❷環境技術の追求

環境技術のあらゆる可能性を追求し、環境と経済の両立を実現する新技術の開発と定着に取り組みます。

❸自主的な取り組み

未然防止の徹底と法基準の遵守に努めることはもとより、地球規模の環境課題を踏まえた樹種的な改善計画を策定し、継続的な取り組みを推進していきます。

❹社会との連携・協力

関係会社や関連産業との協力のもとより、政府、自治体を始め、環境保全にかかわる社会の幅広い層との連携・協力を構築していきます。

「トヨタ車体環境取り組みプラン」

1993	1995	2000	2005	2010	2015	2020
第１次	第2次	第3次	第4次	第5次	第6次	
◇環境取り組み体制の整備	◇ISO14001 の導入による取り組みレベルの向上	◇埋立廃棄物ゼロエミッションと活動領域の拡大	◇CO_2 削減への対応と製品の環境配慮設計	◇超小型 EV の開発推進 ◇地域と共生した工場づくり	◇グローバルで環境負荷低減 ・CO_2 削減 ・生物多様性への対応	

分野＼領域	低炭素 社会の構築	循環型 社会の構築	自然共生 社会の構築
製品環境(開発設計)	・車両軽量化による燃費向上 ・超小型EVの開発と導入促進	・車両の解体性向上 ・リサイクル材の使用拡大 ・植物を利用した材料開発	・製品含有化学物質の管理充実 ・環境負荷の少ない製品への代替え推進
生産環境(生産・物流)	・低CO_2生産技術開発・導入 生産性向上、省エネ改善活動 ・物流における輸送効率向上と構内部物流の電動化	・排出物の低減と歩留り向上活動 ・梱包資材使用量の低減	・塗装における環境負荷物質(VOC)の低減 ・地域と共生、自然と調和する工場づくりの推進
環境マネジメント(環境経営)	・連結環境マネジメントの強化、推進 ・環境啓発、教育の充実と推進	・環境リスク未然防止の強化、推進 ・仕入先と連携した環境活動の一層の推進	

click 第５次「トヨタ車体環境取り組みプラン」
click 第６次「トヨタ車体環境取り組みプラン」
click 推進体制と実施事項
click 2015 年度取り組み結果

製品環境

3 大重点テーマ：低炭素　循環型　自然共生

トップクラスの燃費性能に寄与する軽量化技術の開発

エネルギー・温暖化問題は人類や生態系への影響が懸念される重要な環境問題と考え、
関係部署と連携し環境にやさしいクルマづくりを設計段階から取り組み技術開発を進めていきます。

車両部品の軽量化技術の開発

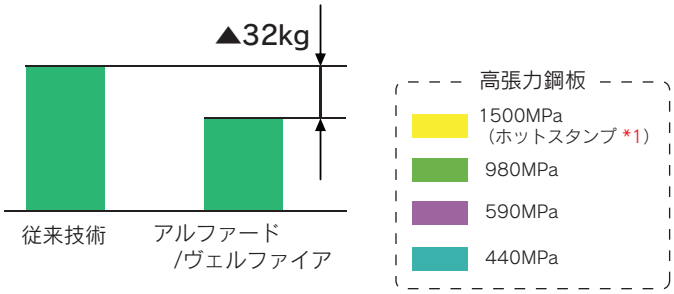
燃費向上には、パワートレインの改良とともに、車両の軽量化も欠かせません。
そのため、車両部品の軽量化は当社の基幹技術であると考え、全社で連携しながら積極的に取り組んでいます。

開発・生産技術部門の役員を交え、
アルファード /ヴェルファイアの
軽量化について討議

ボデー・内張り部品の軽量化に向けた主な取り組み

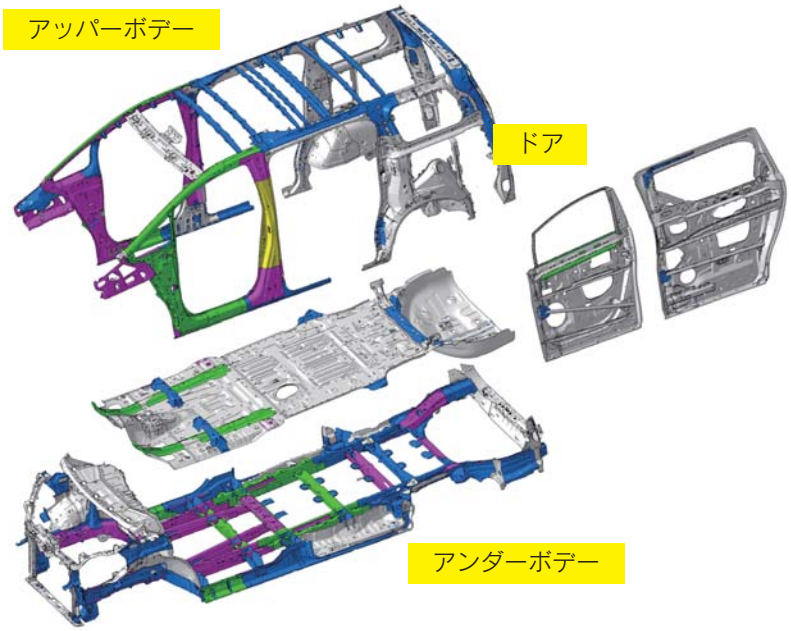
【アルファード /ヴェルファイア】

アンダーボデー重量のうち、約 62% に高張力鋼板を採用し、内張り部品の構成工夫や薄肉化により▲32kg の軽量化を実現しました。
高張力鋼板の採用により、効率的に剛性を高め、衝突安全性能を確保しつつ軽量化と高強度なボデーを両立しています。



*1．ホットスタンプ：鋼板を高温加熱軟質化させた状態で
プレス加工を行い、部品を加工する方法

＜ボデー＞

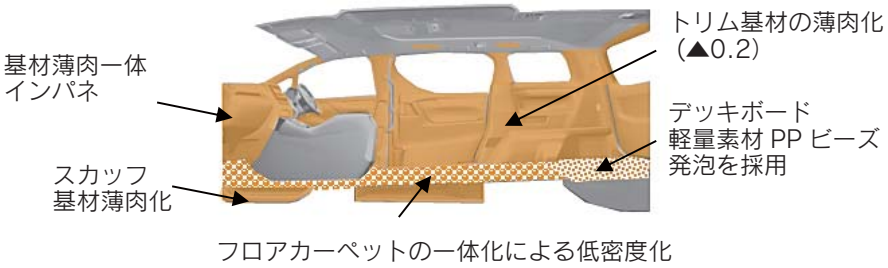


軽量化　ＣＡＥ解析技術　担当者の声

ＣＡＥ部　安全ＣＡＥ室
渡邉　純二

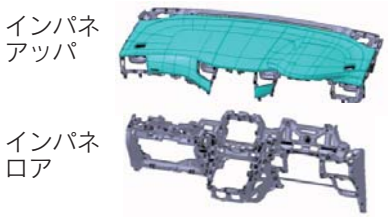
側突時に強度が必要な B ピラーに 1500MPa ホットスタンプを最適配置し、安全性能を確保しつつ軽量化を実現しました。

＜内張り＞

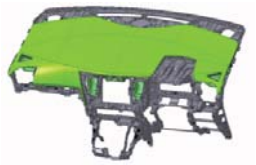


＜インパネの例＞

旧型モデル：アッパ／ロア 分割構造



現行モデル：アッパ／ロア 一体成形



単体での強度アップにより薄肉化し、約 3kg の軽量化を実現

製品環境

3 大重点テーマ：低炭素　循環型　自然共生

資源の有効利用に配慮したリサイクル設計の一層の推進

あらゆる資源は有限であるという認識のもと、3R(Reduce, Reuse, Recycle) を柱にして、解体性向上、リサイクル材の使用拡大、植物材料の開発・設計に取り組んでいきます。

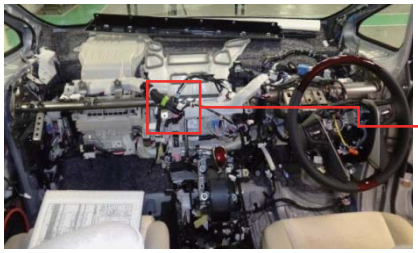
車両解体性向上に向けた取り組み推進

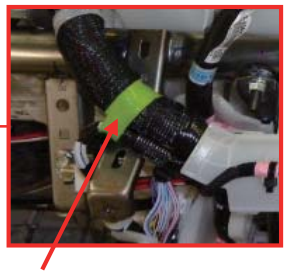
市場で広く行われる様になった重機での自動車解体に合わせ、トヨタ自動車の協力のもと、解体しやすい車両構造の開発に取り組んでいます。

重機でのワイヤーハーネス解体性向上

新型アルファード / ヴェルファイアの廃車車両から効率的にワイヤーハーネスを取り外せる基点となる位置に緑テープを設定し、解体性向上を図りました。

click 重機での自動車解体「動画」





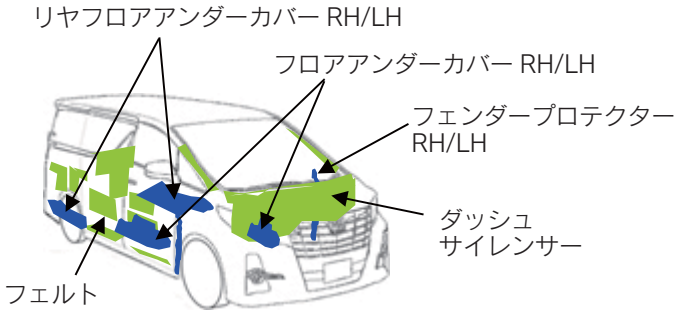
インストルメントパネルワイヤーハーネス

取り外しやすい基点となるワイヤーハーネスの位置に緑テープを設定

リサイクル材の使用拡大に向けた取り組み

市場で廃棄される樹脂やフェルトのリサイクル材の使用拡大

アルファード /ヴェルファイアではポリプロピレンのリサイクル材や再生フェルトを使用し、リサイクル性の向上を図りました。



：ポリプロピレン（バンパー、他のリサイクル材）
：再生フェルト

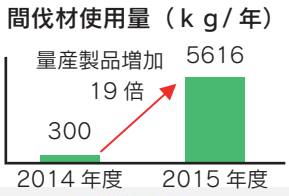
植物材料を利用した材料開発

スギ間伐材の利用

スギ間伐材を強化繊維として利用した難燃性射出材料「TABWD/ タブウッド」*1 を開発。
補給用フォグランプブラケットから量産製品を増やすことで、資源の有効活用を図っています。

スギ微細繊維

TABWD



*1.TABWD：Toyota Auto Body WooD plastic

■地球環境にやさしく

製品環境

3 大重点テーマ：低炭素　循環型　自然共生

超小型電気自動車コムスのリサイクル事業

2015 年 4 月からスタートした「コムスリサイクルシステム」は、自動車リサイクル法適用外のコムスに対し、当社が独自に構築したリサイクルのしくみであり、不要となったコムスを適切にリサイクルしています。
今後も資源循環型社会の実現に向けて、適切なリサイクルに取り組んでまいります。

適切なリサイクルの確認

コムスの引き取り・運搬

鉛バッテリー回収

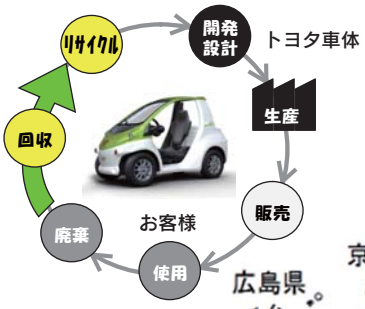
破砕後リサイクル処理

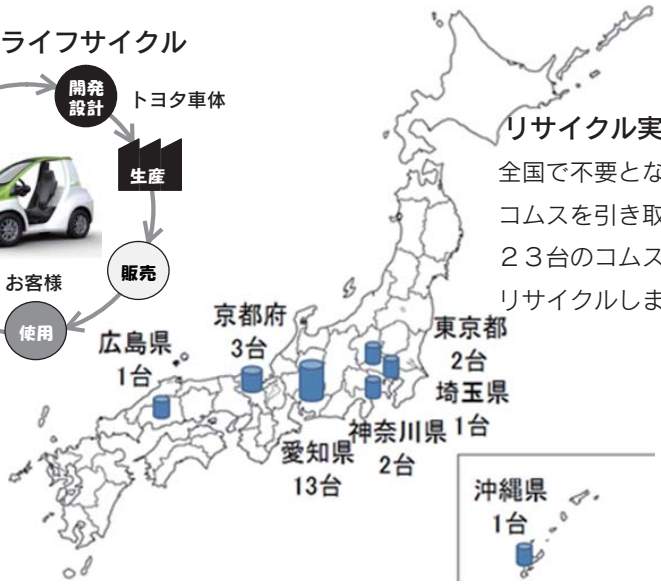
超小型電気自動車コムスのリサイクル事業担当者の声

技術管理部
田中　宏樹

より良い製品をお届けするだけでなく、処分にお困りのお客様を助け、将来の子供たちのためにも資源の有効活用、環境保全に努めています。

コムスのライフサイクル





リサイクル実績
全国で不要となったコムスを引き取り、２３台のコムスをリサイクルしました。

click コムスリサイクルシステムのホームページ

3 大重点テーマ：低炭素　循環型　自然共生

製品に含有する化学物質管理の推進

原材料・部品などの取引先様と連携し、製品に含有する化学物質の使用把握とリスクを評価し、化学物質管理や環境負荷の少ない物質への転換など環境保全に努めていきます。

REACH 規則など、世界の化学物質規制への確実な対応

化学物質規制は日本の化審法 *1、欧州の ELV 指令 *2、REACH 規則 *3 などがあるほか、北米・アジアでも独自の規制を設けています。

こうした国際的な化学物質規制を受け、当社ではトヨタおよびサプライヤーと協力して IMDS *4 登録などの化学物質管理の仕組みを構築し、運営しています。

2015 年度は、更にグローバルに対応するために、国内と同様に IMDS 登録の仕組みを構築し、推進しています。

当社の海外子会社とテレビ会議を実施し、化学物質管理の支援を行っています。（インドネシア）

*1. 化審法：化学物質の審査および製造の規制に関する法律
*2.ELV 指令：End of Life Vehicles　使用済み自動車に関する指令
*3.REACH 規則：Registration,Evaluation,Authorization and Restriction of Chemicals
化学物質の登録, 評価, 認可及び制限に関する規則
*4.IMDS：International Material Data System　自動車業界向けの材料情報システム

click グリーン調達ガイドライン（2016 年 5 月改訂）

生産環境

3 大重点テーマ：低炭素　循環型　自然共生

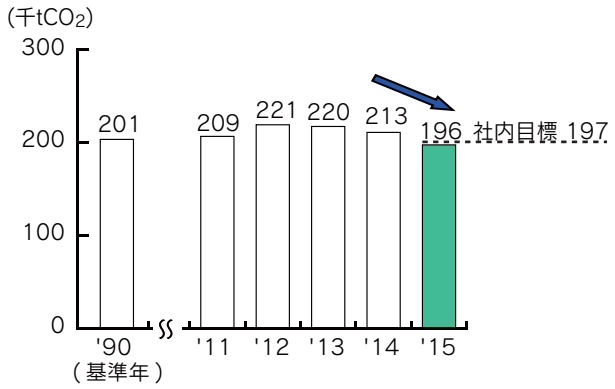
生産活動における省エネ活動の徹底と CO_2 排出量削減

低 CO_2 生産技術開発・導入、生産ラインでの生産性向上の追求、日常の徹底したムダ排除、設備の適正運転を推進しています。

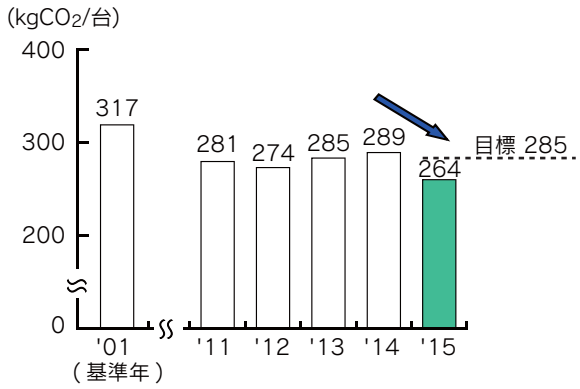
生産工程の CO_2 低減活動

全社では CO_2 排出量と台当り CO_2 排出量の目標を達成しました。

CO_2排出量(当社)



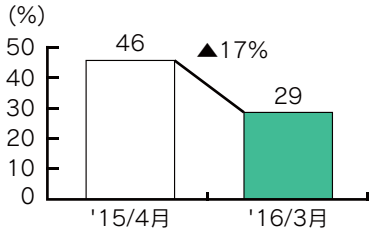
台当りCO2排出量(当社)



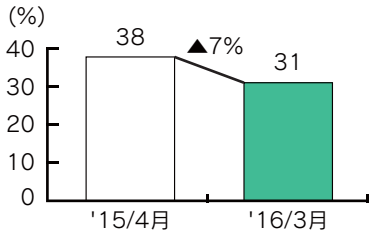
いなべ工場での非稼働エネルギー等の低減活動

弊社では非稼動エネルギー低減を重点に推進しています。
特にいなべ工場では毎月 1 回、「工場長省エネ報告会」を開催し、活動を加速させています。

いなべ工場 直間電力使用率



いなべ工場 直間エアー使用率



「工場長省エネ報告会」の様子

「現地点検」の様子

＜通路照明スイッチを操作し易くした事例（改善後）＞

いなべボデー工程
通路照明一括制御盤

点灯状態も分かる
タッチパネルスイッチ

いなべ省エネ活動　担当者の声

いなべ塗装部
若尾 純平

地球温暖化は企業活動において重要な課題です。温暖化防止に向け、我々が貢献できることを愚直に推進していきます。

生産環境

3 大重点テーマ：低炭素　循環型　自然共生

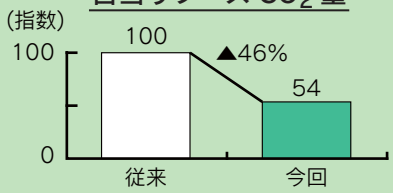
生産工程の CO_2 低減活動

吉原工場塗装ブース更新における技術革新による CO_2 半減チャレンジ

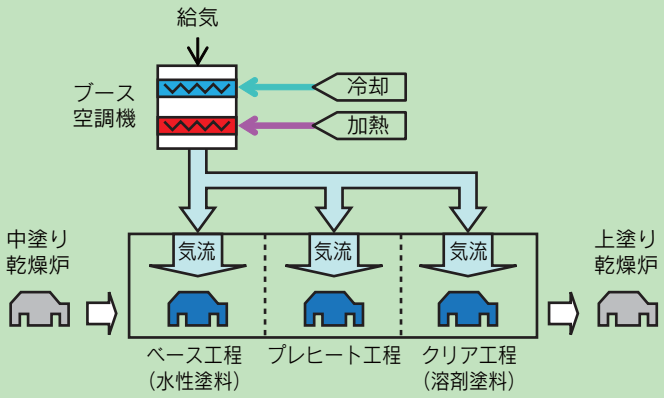
＜主な省エネ技術＞

- ロボット工程の空調風量低減（ブース幅縮小）　・・・【事例①】
- 冷温水同時取り出しヒートポンプ採用　・・・【事例②】
- 空調機熱源の蒸気レス化
- 空調排気リサイクル

＜効果＞
台当りブース CO_2 量



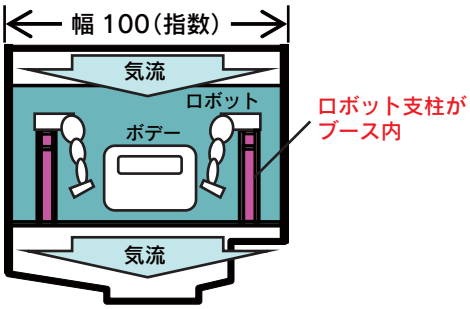
＜上塗り塗装ブースの流れ＞



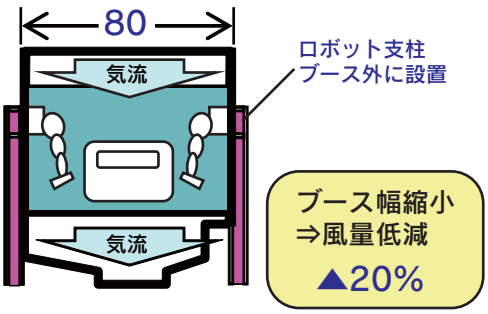
【事例①】塗装ブース幅の縮小による空調風量低減

塗装吹付ロボットの支柱をブース外に配置し、空調容積を減らし、空調風量低減を図りました。

＜従来＞　【ブース断面イメージ】



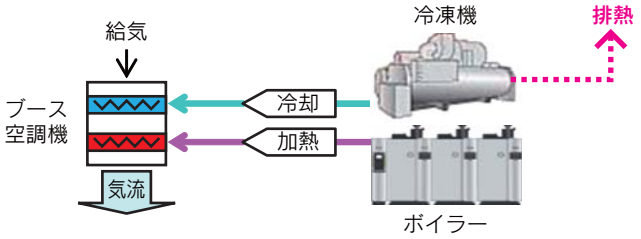
＜今回＞



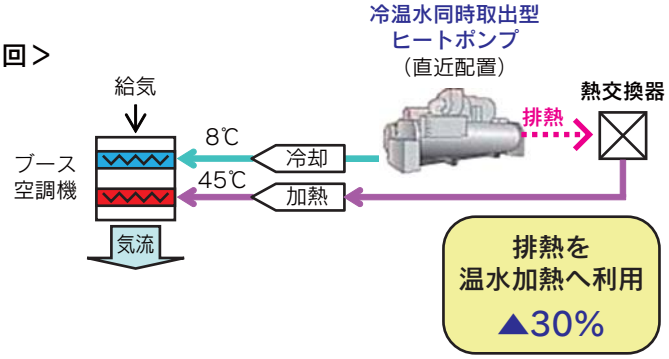
【事例②】冷温水同時取り出しヒートポンプ採用による省エネ

冷水製造時に発生する排熱を有効利用できる冷温水同時取出型ヒートポンプを採用しました。

＜従来＞　【冷温水製造・供給フロー図】



＜今回＞



吉原 CO_2 半減チャレンジ　担当者の声

(左)吉原塗装部
稲垣 一彦

(右)塗装生技部
大山 隆宏

塗装工程で消費するエネルギーは約50%を占め、ここでの省エネが重要です。
今後も更新・改装時、CO_2半減にチャレンジしていきます。

生産環境

3大重点テーマ：低炭素　**循環型**　自然共生

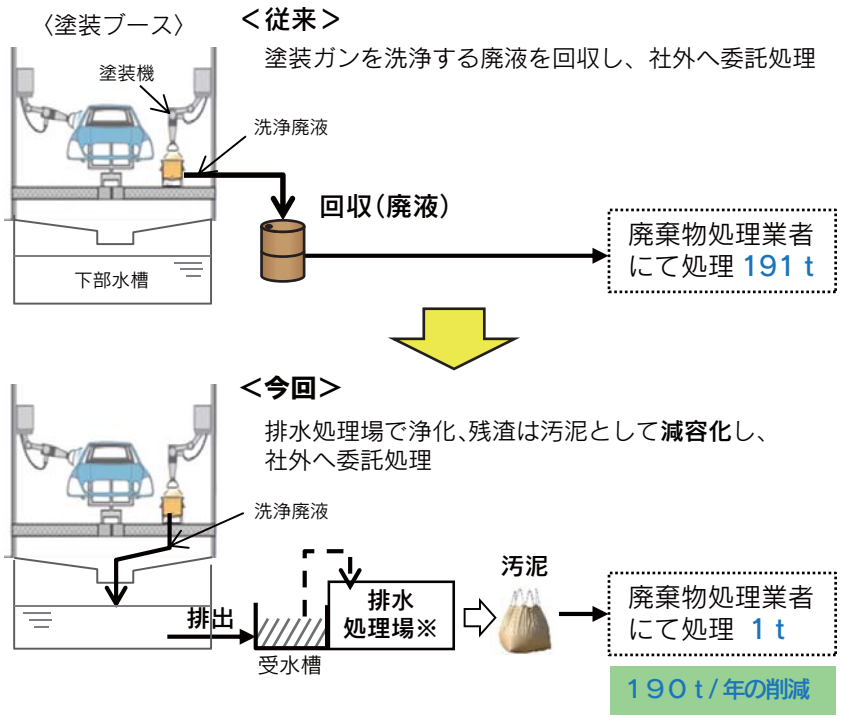
環境負荷の少ない生産活動の推進

生産時に発生する廃棄物低減を発生源対策や資源の有効利用活動など積極的に推進しています

生産工程の廃棄物低減活動

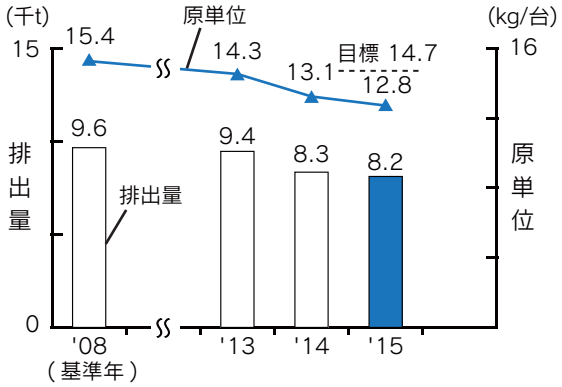
いなべ工場　塗装機洗浄廃液の低減

塗装工程で発生する水性塗装機の洗浄に伴う廃液を
社内処理方法を確立し廃棄物排出量を低減しました。



※廃液中の有機物を排水処理場のバクテリアで分解処理

全社 廃棄物排出量 実績



廃棄物削減 担当者の声

ＰＥ環境部　西山　涼子

常に環境負荷の少ない生産活動を心掛け、関係者と連携を密にして推進しています。

3大重点テーマ：低炭素　循環型　**自然共生**

地域と共生、自然と調和する工場づくり

私たちは、自然や多くの生きものと関わりながら生活しています。人と自然が共生、地域の環境を維持するため地域の皆さんと連携し、自然と調和する工場づくりに取り組んでいます。

地域と連携した環境意識向上の取組み

富士松工場隣接地の、生物の生息地の拠点である「刈谷・ふれ愛パーク」を活用し、地域と連携し、環境学習を推進しています。

また、吉原工場隣接地に「やまぼうし公園」を開設し、地域の交流の場として活用し、いなべ工場では「森の学習室」にてモノづくり体験を実施しています。

植物の生育を学ぶ観察会
（ふれ愛パーク）

近隣小学生の写生大会
（やまぼうし公園）

環境マネジメント

連結環境マネジメントの強化

社内、国内・海外子会社、取引先、地域と連携したマネジメント体制を整備し、環境取り組みの活性化を狙い、啓発活動等を積極的に展開しています。

国内・海外子会社を含めたマネジメント強化

生産環境委員会の下部で各社の社長をメンバーとする「連結子会社生産環境委員会」を立上げました。

また　現地現物による環境監査を定期的に実施し、環境対策を推進するとともに、現地スタッフの育成にも努めています。

連結子会社生産環境委員会
（海外：８社　国内：５社）

海外現地監査（アメリカ）

社員教育の充実と推進

環境教育を階層別や専門分野別に実施し、意識の醸成や知識付与を図っています。

上記の活動を含めた環境保全施策の推進が評価され、「刈谷市 eco 事業所」認定を受けることができました。

社内　騒音防止勉強会

刈谷市ｅｃｏ事業所認定式
（2015 年 11 月）

環境啓発活動

「地域・地球環境・人に優しい工場作り」をコンセプトとした環境展示を常設し、社内外への情報発信と学習の場に活用いただいています。

また環境月間に社員の環境意識向上を図る為、講演会を開催しました。

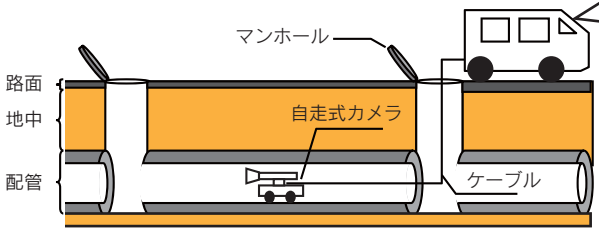
社内環境展示会
現物展示による学びの場

環境講演会（2015 年 7 月）
講師　イオン（株）

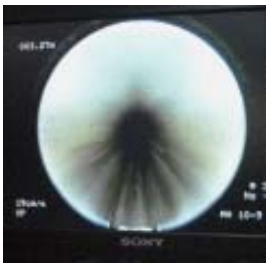
環境リスクへの未然防止活動

生産汚水、薬品等の取扱い施設からの漏えい防止策を推進しています。

2015 年度からは地中に埋まっている配管の内部点検を順次実施しています。



自走式カメラを使った配管内部調査



配管内部の画像

click 「事業活動における資源投入量と排出量」
click 「環境情報の積極的開示」
click 「環境会計」

みなさまからお寄せいただいたご意見をトヨタ車体のこれからのＣＳＲ活動やレポートの改善にいかすために、アンケートに是非ご協力ください。

お寄せいただいたご意見・ご感想は、上記の目的のためにのみ使用させていただきます。
（個人情報の取り扱いについては弊社「 プライバシーポリシー 」に基づき、適正に管理します。）

アンケートはこちらからご回答いただけます。 click

発行

本社	トヨタ車体株式会社 〒448-8666　愛知県刈谷市一里山町金山100番地　TEL.0566-36-2121
お問い合わせ	経営企画部 TEL.0566-36-7510　FAX.0566-36-9113
発行	2016年6月（次回発行2017年6月予定）

click http://www.toyota-body.co.jp/